



from Beijing

歴史と近未来が交錯する巨大都市



シェア自転車を手で運ばれる様子

中国の首都・北京は、古い歴史を持ち、元の時代にはすでに首都として栄え、故宮や万里の長城など7つの世界文化遺産があるほか、胡同と呼ばれる昔ながらの古い町並みが各所に残るなど、少し散歩するだけで歴史を感じさせてくれます。

その一方、中国国内で屈指のビジネス先進地でもあります。もともと北京はスタートアップ企業が多いと言われていますが、最近の調査で、都市別のユニコーン企業数（注）で世界一になったと報告されました。特に、電子商取引、人工知能、シェアリングエコノミーなどの企業が多く存在すると言われています。有名な大学も多く、デジタル分野に秀でた人材が多く集まってくるのが背景にあるでしょう。市内でもイノベーションが起こっていく様子や、それがビジネスにつながっていく様子を垣間見ることができます。北京の中心地から車で30分ほどの場所

では、公道で自動運転の実験が行われており、一般の人でも試乗ができます。また、ロボットが、アパート内のフロントから部屋まで宅配物を届け、レストランでは料理をテーブルまで運ぶ姿を見ることができます。

このように、人手を介さないサービスが模索されているものの、現在のユニコーン企業の先進的なビジネスが、多くの人手によって成り立っていることも有名です。北京では、ネット通販で購入した日用品が1時間以内に届きますが、それを可能としているのは多くの配達員です。本年5月公表の人口統計では、北京の常住人口が10年前と比べて228万人増えた2,189万人となり、これ以外にも多くの人が地方から働きにきています。

身近に雄大な歴史を感じられるのが北京の魅力ですが、先進的なビジネスの街で多くの人々が生き生きと暮らす様子を感じられるのも大きな魅力の一つでしょう。
(日本銀行北京事務所)

(注) ユニコーン企業：創業10年以内で、企業価値の評価額が10億ドルを超え、株式を上場していないベンチャー企業。

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



胡同の町並み。休日に住民が道端でよくトランプをしています



自動運転の車。歩行者が横断しても手前で停止します